



# バンコク便り



## 1. はじめに

4月のタイといえば、水掛祭りで有名なソンクラーン（タイ正月）の時期です。コロナ禍の2020年～2022年は入国制限がありイベント等も開催されませんでした。今年には大幅な規制緩和が行われ、街中でも大規模イベントが予定されるなど久しぶりに大盛り上がりとなりそうです。

## 2. 現地ビジネス情報（BCG 経済モデル推進によるタイ投資機会について Vol. 1）

現在タイの首都バンコクでは都市化が急速に進み、高層マンションや新しい駅、路線の開発が継続して行われています。一方で、なかなか先進国の仲間入りができないジレンマを抱えています。その大きな要因として「外国資本誘致により経済は成長したものの、国内産業は活性化していない」ことが挙げられ、タイ政府は国内産業の成長を促していくため、「BCG 経済モデル」の政策方針を策定しました。

「BCG 経済モデル」とは **Bio・Circular・Green** の頭文字を取った略称であり、主に「B：バイオ経済」、「C：循環経済」、「G：グリーン経済」の3つの分野を統合した経済モデルを指します。バイオ経済ではサトウキビの搾りカスから生成されるバイオ燃料などといった生物資源の活用、循環経済は循環エネルギー・廃棄物のリサイクル、グリーン経済では環境対策などの持続可能な技術・システムの開発を計画しています。政府はこのモデルの達成を図るべく、2021年から2026年までの戦略を策定し、「農業・食品」「医療・ヘルスケア」「バイオエネルギー・バイオマテリアル・バイオケミカル」「観光・クリエイティブ経済」の4分野を注力分野としました。この戦略策定を受け、タイ投資委員会（BOI）はBCGモデル関連産業への直接投資を促していくため、国内外事業者の投資に対し、その業種や有する技術に応じた恩典を付与しています。

<p>【戦略1】：保全と利用のバランスを取りながら、資源基盤と生物多様性の持続可能性を推進する。 タイでもSDGs（持続可能な開発目標）達成の機運は高まっており、国内企業では難しい高度な技術が必要となり、日本をはじめとした独自技術を持った国外企業との協業には大きな期待が寄せられています。</p>
<p>【戦略2】：資本、資源、アイデンティティ、創造性、最新技術を用いて、共同体と草の根経済の能力を向上させる。「生物多様性」と「文化的多様性」を重視しつつ、地域を基盤とする発展可能性を「内側からの爆発」に活用し、生産チェーンをより高付加価値なものへと昇華させる。 農業・医学、観光業等を指しているとされ、例えば農業においてはタイの代表的農産品であるキャッサバ・サトウキビ・パーム油のバイオ経済セクター製品の原材料としての活用など、食料以上の存在への高付加価値化が期待されています。</p>
<p>【戦略3】：知識、技術、イノベーションにより、BCG 経済の下で産業における持続可能な競争力を向上・促進するとともに、「少ない方が豊か」という思想に基づいた環境に優しい生産システムを重視する。 経済発展によるCO2や廃棄物の急速な増加がある現状からの脱却を指しているとされ、脱炭素化や廃棄物のリサイクル技術が恩典の対象とされています。</p>
<p>【戦略4】：世界的な変化に素早く対応する能力、免疫力を高め、影響を緩和する。 SDGsをはじめとする、世界共通の課題に対して積極的に対応していく事を宣言し、コロナ禍で中断された観光立国としての再ブランディング、少子高齢化への対応などとされています。</p>

## 3. 現地トピックス（現在のタイの様子）

3月下旬に出張でタイを訪れる機会がありました。昨年9月に訪れた際も活気に満ちていましたが、たった半年でさらに観光客が増え、ほぼコロナ禍前の活気を取り戻しつつあることが、手に取るように分かりました。

バンコク中心部にある観光客に人気のレストランは多くの人で溢れ、両替所にも行列ができるなど、コロナ禍前の懐かしい光景が広がり、日本人観光客を何度も見かけました。街中ではタイ最大規模とされる大型複合施設の「ONE BANGKOK」や複数の高級コンドミニアムなども建築中であり、訪れる度に新たな発見があります。5月8日以降は日本の水際対策も終了予定で、自由に渡航できるようになることが楽しみです。



建築中の ONE BANGKOK



両替所に並ぶ観光客

【本件に関する連絡先】 荘内銀行営業推進部 地方創生室 軽部・齋藤 023-626-9050